

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
38

2015 睦月・如月

謹奉賀新春

リスクを恐れず勇気を出して行動すると、
希望の光が見えてくる。行動しないと成功もない。
皆様方が幸多き一年でありますように祈念いたします。

金剛禅総本山少林寺代表 浦田武尚

鼎談

現代社会に生きる“運動体”として



現代社会に生きる〴〵運動体〴〵として

金剛禅教団では、中長期展望として、道院が地域と密着したコミュニティとしての環境を整え、そこに集う老若男女の一人ひとりが自己の可能性を信じてダーマ信仰を確立し、皆の喜びを自分の喜びとして感じる人の輪(和)を広げていくことを目指している。今号は、宗由貴師家、浦田武尚代表、大澤隆副代表が新年の豊富を語り合った。

どう生きるか

代表 本日は、全国の道院が今の社会に生きる〴〵運動体〴〵としての可能性について語り合いたいと思います。

師家 私たち教団の使命は、そこに集う一人ひとりが生きがいを持って人生を創(つ)っていくための力になることです。それは〴〵他人〴〵の人生に向き合うということです。そのためにも、私は今、他人の人生に向き合いたいと心から願ひ、自然体で生きることにしています。というのは、開祖と22年間過ごしましたが、今日になって改めて開祖の〴〵人間としての魅力〴〵が分かってきたのです。開祖は常に自然体で生きていました。

でも、開祖は為(な)されるがままに生きていたのではなく、社会の流れを読み、自ら感性を磨く努力をされて

いました。その努力が何か特別なことではなく、自然体という姿になっていた。常に感性を磨いていたから判断、決断がぶれなかった。また開祖は「同じメッキなら一生剥げんような厚いメッキになれ」と言っていました。たとえメッキでも、丁寧に心を込めてそうならうと努力していけば、やがて変わっていくものなのですね。

代表 それはすなわち自分が「どう生きるか」につながりますね。そして、他人に対しても「どう生きるか」を導いていくのが道院長です。そのためには、道院長自身が人間としての資質を磨き、時事問題に関心を持ち、地域においてもリーダー的な存在となるよう努めていかなければなりません。時にはカラオケで歌だって歌えなきゃならない。そういった

意味で道院長はスーパースターなんですね(笑)。

副代表 真面目は大切ですが、それだけでは人はついてこない。あるいは道院長が自分の考えのみに固まってもいけません。門信徒は一人ひとり違いますから、彼らと一緒にこの道を進んでいくためには、道院長に人としての幅と柔軟性が必要です。また、先ほど代表が言われたように、地域に向けて働きかけることのできる行動力も求められます。

師家 それぞれの地域性にもよりますから、開祖の丸写しでなくていいのです。また道院長や指導者という「人」も大切ですが、金剛禅はそれだけではありません。礼拝施設が整えられた道院に身を置くことで、おのずと心が感化され、豊かな人間性が育まれる。「薫習(くんしゅう)」ですね。今後は

これを存分に活用していくことです。特に儀式をはじめ、法話もただ行うのではなく、今の人たちに求められるような方法を工夫したいものです。

道院長、金剛禅の魅力

代表 副代表は現役の道院長でもあります。今回の改革によってどんな変化がありましたか。

副代表 「道院とは何か」を考えさせられ、その分、多くの発見もありました。道院は一般に人からは「少林寺拳法をやっている所」としか見られないものです。でも実際に入門したり、宗道臣デー活動などに参加していただくと、「思っていたのと違う」と言われます。道院は武道教授の場なのではなく、人と人が触れ合い、磨き合う薫習の場です。そのために、まずは近所の人たちも参加

2014年11月14日
金剛禅総本山少林寺にて
担当／飯野貴嗣

できるような簡単な法会^{ほうえ}を月に一度
でいいから始めて、これを継続して
行っていきたいものです。

例えば私の道院では、月初めの法
会では「単に技の教室で技を覚える
のではなく、道院という所で人間を



金剛禅総本山少林寺 代表 浦田 武尚



少林寺拳法 第二世師家 宗 由貴



金剛禅総本山少林寺 副代表 大澤 隆

養っていく」ことを確認し、月の終
わりには、「1か月間無事に過ごす
ことができたね」と互いに集え
ることを喜び合うのです。もちろ
ん根底には「開祖の志」と金剛禅の「将
来像」があり、少林寺拳法の修練を
通じて、勇気や行動力を養っていく
のです。技術も大切ですが、法話も
大切です。

代表 道院において法話は本当に
重要です。私は常々言っています。
「法話のできない道院長は道院長で
はない」と。法話に苦手意識を持つ
道院長もいるでしょう。でもまずは
実践です。話し方のテクニックや知
識よりも、道院長の思いを純粹に門
信徒に伝えることです。少しずつ改
善や工夫をしていけばよいのです。
また昨年は「布教強化月間」を提唱し
ました。これは、一般の人たちに私
たちの活動を理解いただくための取
り組みとして、宗道臣デーや達磨祭^{だるま}
の実施に併せて公開法話などを催す
ものです。これは非常によいことだ
すから、教団として今後も継続して
いこうと考えています。

師家 法話や対外的な場での講演活
動は、話をする者が何よりも勉強に
なりますね。納得感を得てもらえた
り、生きる力の一端を他人に与える

ためには、自らが教えの理解と行動
体験、そして納得感を持つているこ
とが必要ですから。特に一般の方々
に対して講演する機会を頂いたとき
は、少林寺拳法の専門用語を前提に
話すことができませんから、誰にで
も分かる言葉と事例によって、その
会の目的を達成するという目標もで
きます。私たちの教団(道院)は密室
的なものではありませんから、一般
の人が参加しやすいよう、もっと開
かれた道院にしていきたいですね。

代表 道院にはすばらしい可能性が
ある。開祖は決して「本山に右へ倣
え」とは言わなかった。「あとは自分
の才覚でやれ」「君たちの知恵を加え
てくれ」と。日頃から見聞を広げ、
自分なりに考え、行動し、改善して
いくことが大切です。

動禅とは

師家 少林寺拳法が大好きで、それ
なりの段位も持つていて、体も動く
人は、技のパフォーマンス性のみに
すがってしまっているのではないかと
感じることがあります。門信徒は
道院長の技の魅力だけではなく、人
としての魅力にも慕い集ってきてい
るのに、それに気づかない道院長が
いるとしたら、もったいない。

副代表 技ができ、体が動けるうち

が道院長、と思っている人は多いかもしれません。でも、体が動かなくなってきた、いろんな問題を抱えたときに道院長の人間味が現れてきて、動けなくて道院長というのがある。しばしば「自分は何もしていない。幹部を中心にみんなが一つになつてやつてくれるので、私は何もすることがありません」と言われる道院長がいます。そのような道院は門信徒が多いですね。

師家 そういうところは、子道院も多い。地域の関係も一緒に、そういう人は地域からも頼られています。

以前、ある人から私たちのことを「柔軟に対応できる組織」と言われたことがあります。組織はもちろん、道院の活動に柔軟性を感じている人だと、金剛禪の本質をいろいろなことに活用することがあります。「動禅」という言葉がありますが、技や精神性にこだわる人がこの言葉を聞くと、どうしても拳技の域を超えられません。でも、思考やイメージに柔軟性があれば、「教えを実社会、日常生活に生かすことが動禅である」と捉えることができます。教えは学問的追究に終わるのではなく、日々の生活、人生に生かしてこそで



す。そのためには鎮魂行の行い方も大切です。鎮魂行にふさわしい環境を整え、その意味も分かった指導者が、道院に集う人たちに効果のあるような鎮魂行を行えば、そのあとの修練も、仲間との関係も、そして日常生活や地域との関わり方も、全てが変わっていく。それが動禅です。

代表 つまり、「動禅＝易筋行」とか、「静禅＝座禅」というような狭い解釈ではないですね。

ていても、それは動禅とはいえませんが、意味を理解して日常生活を送って初めて動禅となると思います。

師家 そのためには私たちが日頃話す言葉もネガティブ言葉ではなく、ポジティブ言葉を心がけなければなりません。ポジティブ言葉を使うと周りも元気になるし、協力者も現れてくるのです。

慈悲の心で合掌礼

代表 組織の将来を考えたときに、やはり金剛禪は指導者への道、必要なのは指導者を育成していくことだと考えています。私は後輩が夢を持ってこの運動の指導者になり、地域で活躍してくれる人の育成に力を注いでいきたい。「少林寺拳法ってすばらしいものなんだよ」と。特に今の組織には40代までのお兄ちゃん先生、お姉ちゃん先生という指導者が必要です。この年代は、仕事においても家庭においても多忙を極める年齢ではありますが、青少年たちが目標として憧れる存在になるようなお兄ちゃん先生、お姉ちゃん先生が必要なのです。

師家 そうですね。このまま何もしなければ日本は2050年まで超少子高齢化によって人口減少が進むと

いわれています。それを踏まえて若手指導者を発掘し、育てていくためにも、シニアの年代が元気で楽しめたり憩えたりできる空間が道院に求められます。金剛禪という教えも道院という活動の場も、社会と向き合っている、人と向き合わなければ存在の意義がありません。

私は少林寺拳法に関われて本当に良かったと思えます。私自身が変わることができましたし、また私がその人の人生に向き合うことで、目の前でその人が変わっていくのです。それは総裁だからとか師家だからという立場があるからなのではありません。誰であっても目の前の人の人生に向き合い、その人の人生の力になることができるはずで。そしてこれが道院の存在価値ではないでしょうか。私は新年の年賀状に「合掌」と書きました。相手に対して気持ちを込めた合掌礼ができたらずばいいですね。柔かくて優しく、相手が気持ちよくなる合掌礼を心がけたいものですね。それが相手にも伝わるんです。

副代表 そうですね。一人ひとりが相手を尊重し、慈悲の心で合掌礼を交わし合える一年にしていきたいものですね。



開祖語録 ダイジェスト

1975年12月14日
定例(道院長会・武専講義)

共産主義でも資本主義でもない、第三の一つの思想として、我々の存在が現実にくローズアップされつつある。しかも海外へ行くほど、非常に高いレベルの人たちが少林寺拳法に関心を寄せてこれをやっているわけです。そういう中に諸君はおるわけですから、少なくとも外国の人から笑われん程度の教養や、見識や、指導力というものを、ぜひ持つてもらわにゃ困ると思うんです。

田舎の少林寺拳法であった時代はとうに通り越して、これからの子供の憧れの的は単なる武道でもない、中国拳法のブルース・リーのあれでもない、日本の少林寺拳法なのです。そのリーダーを諸君は今やりつ

諸君の教養、見識、指導力を！

つあり、あるいはこれからやろうとしておるわけです。そういう中で本当の自信というものの、うぬぼれでない自信を持つこと、これをもう一遍、本年度の総括として考えてみようではないか。

自分の自信はうぬぼれではないのか。あるいは組織の中で自分の存在価値というのはどういう地位にあるのだろうか。本当に少林寺拳法をいitと思つてやっているのなら、少林寺のプラスになるようなことをこそすべきではないだろうか。ぶら下

がつて、ブレーキになるような言動をやっておるのではなからうか。こういう反省が欲しいと思うんです。そして現在の制度を当分維持し、その中で組織をもっと強化し、質を高める、ということになりたい。

その質を上げるという中のいちばん大切なものは、行として、道としての少林寺拳法のレベルは非常にまともとおつて、確立されており、これからしなければならんのはみんなの人格とか、教養を高める、ということに尽きると思います。

ふだん着の、 金剛禅

財務部 部長 宮本 公己

言葉の力

山中伸弥博士(京都大学iPS細胞研究所)の研究人生を励ました故事成語が「人間万事塞翁が馬」だと書かれたコラムを読んだことがある。

これは飼^めつていた馬が逃げ、落胆したが雌馬^{めすうま}を連れ帰り喜んだ。しかし今度は息子が落馬し骨折し怒ったが怪我^{けが}のおかげで徴兵を免れた。人間の人生は幸・不幸が予測できないためいたずらに一喜一憂してはならないという戒めだ。

博士も研究においての成功は、一喜一憂せず、ビジョンを明確にし、失敗や挫折をバネに努力を惜しまないことが最も肝心な要素だと述べていた。いわば、天才故に成功したのではなく、言葉に支えられ、努力によって天職となり天才になったと。

言葉には力があり、人を成功に導くきっかけや信念になりえる。私も開祖や道院長の人間的魅力はもちろん、開祖語録や数々の法話に触

れ、何度となく心を動かされ感動し自信と勇気を頂いてきた。今も変わらず初心に戻れるのは、一喜一憂することなく深く心に響いているからである。今改めて、修行者として信念を持ち、生涯を懸け目標に向かって努力していかなければならないと背筋が伸びる思いでいる。

「元旦の計は一年の計」、年の初めに開祖の言葉をじっくり思料し、よいスタートとしたい。

「理想境」と「理想郷」

今更ではないが、金剛禪の教えの根幹は釈尊の正しい教えを現代に生かすことであり、それは揺るぎない自信（自己確立）を基に、半ばは我が身の幸せを、半ばは他人の幸せを、心から願う（自他共楽）実践行動していくことにより、争い事のない平和で豊かな社会を現世に建設することを目指す、行動する宗教であるといえる。それはまた、人づくりによる国づくりの大道であり、開祖・宗道臣の志であるともいえる。

「信条」の表白の中で理想境建設に邁進（まいしん）するところ。我々が日々無意識に使っている「理想境」という言葉は、『広辞苑』などの辞書を引いても出てこなくて、代わりに「理想郷」という言葉は出てくるのだが、はてさてこれは誤字だろうかと思を悩ませる。それではなぜ郷が境となつてゐるのか。

この「理想境」という言葉は開祖が生み出した造語であり、境（きょう）というのは開祖の心境を指しているといわれている。もう少し深く考察してみると、開祖の大陸での経験を踏まえた発想の中で、国境というのは地続きの壁の壁のようなものであり、それを取り除けば

一つの大きな大陸・国となる。それは「少林寺拳法教範」第一編の書き出しにあるように、ソ連軍が日ソ不可侵条約を無視し、国境を越え一方的な侵略をしてきたことを目の当たりにしたことも影響していると思われる。このような開祖の感性の中から「理想境」という言葉が生まれてきたのではないかと推察される。

また、「理想郷」という言葉についても諸説あるが、16世紀の人文主義者であるイギリス人トマス・モアの著書『ユートピア』の中で、現行の社会を批判したことに対し、自由で平等、戦争のない実際には存在しない空想の社会・国のことをユートピア（ラテン語でどこにもないという意味）という造語で表したとされている。この言葉を訳して「理想郷」としている。

「理想境」も「理想郷」も人の想（おも）い、志の中から生まれた造語なのである。

我々の言っている「理想境」とは、空想や夢の社会ではなく一人ひとりが努力精進することにより現世に争い事のない平和で豊かな社会を建設することにほかならない。人と人、組織と組織、国と国が利害を超え、過去

のさまざまな蟠（わだかま）りを捨て、お互いを認め合い、援（たす）け合うことができる社会こそが金剛禪の目指す社会であり、それは人づくりによる国づくり、調和の世界の現出でもあるといえる。「理想郷」は非現実社会、「理想境」は現実社会であり、我々の目指す「理想境」の建設とは決して空想の世界や夢の世界ではないのである。

余談ではあるが、近年パソコンの普及に伴い各種のレポートがパソコンで作成されてくる。その中で「理想境」を「理想郷」と間違つて変換しているものが見受けられる。また、他の重要な語句や人名についても同様のことがいえる。パソコンは便利なツールではあるが、言葉の意味を理解し確認したうえで、より慎重な取り扱いが求められよう。

「理想境」、この言葉の意味を十分に理解し、金剛禪の教えを社会に広め、金剛禪運動を実践していくことが我々に課された永遠の課題である。皆さん、誠実（しんじつ）さと真摯（しんし）な気持ちを持ち、生かされている自分に気付き、生きている今を大切にしつつ命の尊厳を明らかにし、一生修行を目指していきましょう。



道



人の「縁」、人生の道標「道訓」に教えられ

会津猪苗代道院道院長 田中勝義

私は1950(昭和25)年に北九州の下町で、

双子の兄として生まれました。父は予科練出身の厳しい人で、母は一人娘で勤め人、私と弟は祖父母から甘やかされて育てられ、悪童だったそうです。父の転勤で三重県に引っ越しても悪さばかり。中学生のころが最たるもので、現在、鹿児島県教区長の弟・輝義は更に悪く、親は学校や署に呼び出されては頭を下げていたそうです。60半ばを迎えた私たち兄弟は、未だ母には頭が上がりません。

少林寺拳法と出会ったのは高校生のときです。友人に誘われ、三重大学少林寺拳法部の主将を紹介されて入部。66年、本部214期生でした。後に弟も入部し、そこで楽しく怖かった乱捕りの洗礼を受けました。間もなく神戸から北岡隆弘先生が来られ、私の四日市道院の一期生としての拳歴が始まりました。5歳年上の北岡先生には「勝義、輝義」とかわいがっていただき、兄のように慕っていました。先生は私をまともな高校生へと導いてくださり、京都の大学へ進学できました。弟も同じ大学に入学し、なぜいつも一緒なのかと嫌に思ったのが正直なところです。先生の勧めで京都でも少林寺拳法は続けました。その先生は2014(平成26)年秋に帰らぬ人となり、亡くなる1か月前に電話で聞いた「頑張つてなー、また会おうなー」の声が最後になりました。先日、北岡先生を偲ぶ会に出席し、改めて師の人望の深さを思い知りました。京都別院では4年間、故・原田公臣別院長からこまやかな薫陶を受け、社会人の先輩方からもかわいがられました。拳技にとどまらず、人に対する思いやりや責任感、行動力など、社会人の「いろは」やあるべき姿を教えていただき感謝しております。

卒業後は東京住まいの両親を追い、兄弟一緒に警視庁へ入職しました。結婚も私の3か月後に弟が挙式、子供も私の長女は弟の長男と5日違い、と双子の宿命を感じています。警視庁では別部署に所属したものの、現場が重なったとき、双子であることを知らない職場の友人たちが、今いた人がどうしてあそこにもいるのかと大騒ぎになったことがあります。そのとき、私たちを見た隊長から「お前は幸せだな」と言われ、いつも一緒に嫌だったことが少し自慢へ、「+」へと変わりました。

した。隊長にはその後も大変お世話になり、人の縁がもたらすすばらしさを感じています。

三宅島勤務のときは、学生時代少林寺拳法を修行した人が4人もいて、仲間と楽しく2年間を過ごすことができました。島で飼った猫を診てくれた獣医さんとの法縁もありました。その後、福島県で暮らすようになり、福島県での第一人者、福家祥弘先生に師事させていただき、会津猪苗代道院を開設。福島県ではさまざまな役職を拝命し、間もなく教区長の任期を全うします。現・福島県連盟理事長の斎野光樹先生と三宅島の獣医さんが拳友であったことから2年前に再会し、法縁の広さと深さを感じる生涯の思い出となりました。

11年3月の東日本大震災時、私は福島県連盟理事長でした。全国の拳士の皆様からの温情やご協力に接し、感謝・感動で法縁の深さと絆の強さを感じました。心からお礼・感謝を申し上げます。最近、兄弟で同じ悩みを語り、兄弟のありがたさを感じます。親に感謝、妻や家族、そして仲間に感謝するばかりです。寡黙に、信じた道を進んでいきたいと思えます。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

たなか まさのり
田中 正則 252期生
大導師正範士八段

「私学校でも開いて志ある青少年を集め」という開祖の決意をまねて専修学校をつくりました。理事長兼校長を務め、もう37年になります。私は小学4年のときに腸チフスを患い、痩せこけて、かなりのいじめに遭いました。正義を守るためには力の裏付けが絶対必要であることを痛感しています。今は教育委員会からの依頼で、悪といわれる生徒だけ

行動する前から諦めるな 家族愛が世界を救う

でなく先生の指導も、ボランティアで行っています。

開祖の「行動する前に諦めるな」という言葉を胸に、学校運営にもボランティアにも取り組んでいます。行動はまず身近なところから、福祉の改善はまず家族から。家族愛が世界を救うと思っています。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼年末作務で開祖と記念撮影



ダイジェスト

×



道院長 元気の素 vol.23

おおさか いぶき
大阪伊吹道院
道院長 伊瀬 道昭(52歳)

「いつかは必ずできる！」「信じて待つ」心で拳士を育む

——道院長になろうと思ったきっかけは？

先代道院長である父が倒れ入院したとき、私は道場長でした。家族として病院に付き添わなければならなくなったとき門下生が、「道院長についてあげてください。道院は自分たちが続けて守っておきます」と言ってくれ、その言葉どおり、一日も修練を休みにすることなく続けて

くれました。その門下生の思いを受け、先代亡き後は自分がこの道院を継いでいこうと決意したのです。

——将来、道院長を目指す全国の拳士にエールをお願いします。

「信じて待つ」という心で門下生を育ててください。いつかは必ずできる！



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

道院長資格認定研修会

道院長となる
最初のステップ

10月17～19日、本山において道院長資格認定研修会を開催し、3人が受講した。

今回受講した3人はいずれも道院設立予定者である。受講者はそれぞれ、「人に影響を与えられる指導者になりたい」「先行き不透明な時代を生きる力を与えたい」「社会で力のない人たちを支えたい」という思いを持って、道院長を目指し、研修に臨んだ。

本研修会では、金剛禅運動とは何かを中心に、組織の方向性や、道院の役割、道院長の使命に関すること、その他道院長として必要な知識や実務に関する講習を行った。

研修会の最後には、浦田武尚代表から「道院長となるための最初のステップが終わりました。各地域への布教のため、今後更に知識を深め、人格を高め、立派な指導者となってください」と激励の言葉があった。

受講者は全員、道院長資格認定審査に合格し、今後、正式に道院長となるべく準備を進めていく予定である。(富田雅志)

お知らせ…道院長資格認定研修会は、新しく道院を設立、または道院長の交代を予定されている方を対象に開催しています。ご自身の地域で金剛禅の教えを広めたい方、将来道院長を目指している方は、本山にお問い合わせください。次回の開催は2015年7月17日～19日です。(申し込み締め切り6月1日)

認証式

動けば必ず
結果がついてくる

10月26日、本山において認証式が挙行され、13人が道院長としての認証を受けた。

式典では、初めに浦田武尚代表が願文奉読を行い、続いて新任道院長らが誓願文を奉唱して、道院長としての誓約を行った。その後、浦田代表から道院長の辞令と道院の認証書が一人ひとりに授与された。

認証式後のフォローアップ講習では、道院運営開始から現在に至るまでの総括を踏まえての講義、映像資料を用いての儀式要領の確認、班別討議を行った。班別討議では、現時点での道院運営に対する問題・課題を洗い出し、今後の道院運営を充実させていくべく活発な意見交換が行われた。

最後に浦田代表から、「動けば必ず結果はついてくる。これまでに培ったものを生かし、不転の情熱で布教に励んでいてほしい」との激励があった。新しく道院長となった13人の

三重県教区

心に落ちる
有意義な研修会

9月21日、ホテルグリーンパーク鈴鹿において、愛知香久山道院の須田剛少法師をお招きし、「人間生活において宗教が果たす役割」と「金剛禅の説明が少林寺拳法創始の動機と目的から始まることの意義」というテーマで、道院長および幹部拳士約40人を対象に、2014年度第1回三重県教区研修会を実施しました。須田先生のレベルの高い講義に、道院長はじめ幹部全員が熱心に受講しました。

大幅な時間延長となりましたが、質疑応答も十分な時間が取れないほど、あつという間の2時間で、心に落ちる有意義な研修会でした。(川北洋行)

伊予津島道院

開祖の描いた
理想形を見た

10月12日、伊予津島道院設立

今後の活躍に期待したい。(富田雅志)

※金剛禅オフィシャルサイトの新任道院長紹介コーナーもぜひご覧ください。

45周年記念感謝会が行われた。拳士会、保護者会が中心となり計画実行された記念行事で、式典は100畳の専有道場の、礼拝施設前で簡素かつ厳粛な雰囲気の中で執り行われた。決して華々しくはないが、拳士たち手作り感いっぱいのは会場は、不思議と心が落ち着いた。

来賓は数名のみで他は、道院拳士とその保護者、OBを中心とした拳士会など、約120人全員が道院の直接的関係者の参加した。



列である。小野芳洪道院長が45年間の感謝の挨拶をされた後、道院幹部であった物故者の遺族をはじめ、45年もの長きにわたる道院を支えてきた方々へ、道院長から心の込められた文面の感謝状、記念品が贈られた。演武は小学生から大人まで全員の拳士が一人ひとり呼び出され、演武をそれぞれが披露した。

式典の後は、拳士、保護者会の方々による焼き肉、おにぎり、しし鍋、お菓子などの手作りのごちそうが振る舞われ、少年拳士、兄弟を含む参列者全員が和やかな雰囲気を楽しみひとときを過ごした。台風19号が迫る中、天気を心配しながら屋外で炭で肉を焼く人、おにぎりを作って運ぶ人、飲み物を用意する人、さまざまな関係者が、自分たちによる、自分たちのための感謝会を心から楽しんでいた。

今、金剛禅総本山少林寺で行っている機構改革は道院の原点に帰れということである。まさに今回の式典では、道院活動が、拳士を巻き込み、OBを巻き込み、保護者を巻き込み、地元の人々を巻き込み地域に貢献する、開祖の描いていた少林寺拳法の理想形を見た思いがした。(宇都宮俊二)

2014年10月度 認証

●新設	大久保山手道院	立花 正夫	横浜戸塚道院	中島 健	旭川東道院	原田 雅文
茨木西道院	繁内 一之	新潟曾野木道院	丸山 英人	名東道院	奥谷 成弘	滋賀草津道院
岡山真庭道院	黒田 靖	●道院長交代	東大阪御厨道院	森井 明	本部道院	藤井 省吾
横浜名瀬道院	外山 雅一	富田林道院	西山 和彦	西宮香炉園道院	岡田 祐治	

僧階昇任者

少法師	2014年11月9日付	中導師	山室 鉄也(福岡正法道院)
■2014年9月15日付	佐藤 恭市(山形中部道院)	■2014年8月1日付	■2014年11月9日付
菊地 正克(日立南道院)	近藤 英樹(取手南道院)	高塚 忠行(岩国南道院)	西村 昌彦(板橋菩提樹道院)
前田 保男(東京大泉道院)	草山 真紀夫(秦野東道院)	■2014年10月1日付	石崎 良輔(東京浮間道院)
春日部 裕樹(四日市僧伽道院)	原田 弘二(安城道院)	林 准哉(東京王子道院)	杉崎 賢一(足柄道院)
川上 鐘成(西陣北道院)	市来 聖史(京都北野道院)	沼内 寿浩(海老名国分道院)	室伏 江利子(報徳桜井道院)
大導師	池内 一文(唐津西道院)	矢野 馨(大津比良道院)	中澤 昭則(松阪西道院)

お布施

▷東京大塚道院(だるま祭)	100,000円	▷金沢卯辰山道院拳士会(帰山記念)	10,000円
▷寝屋川道院設立50周年実行委員会(帰山記念)	50,000円	▷金沢卯辰山道院(帰山記念)	10,000円
▷坂出専修道院 道院長 大西 専七(坂出専修道院設立30周年記念)	30,000円	▷鴨島道院 道院長 笠井 健史(帰山記念)	10,000円
▷碧南南道院(帰山記念)	10,000円	▷紀州本町道院(帰山記念)	10,000円
		▷岡山真庭道院(帰山記念)	5,000円

1月の本山行事

1月10日(土) 表彰式
1月11日(日) 新春法会
1月30日(金)～2月1日(日) 道院長資格認定研修会③

2月の本山行事

2月7日(土) 級拳士講習会②(東京)
2月22日(日) 認証式

2015年 新春法会 2015年1月11日(日)



ぜひご参加ください。

本山で行われる新年最初の行事です。皆で新年を祝い、一年の精進を誓い合って、元気に初稽古を行います。

2015年度 金剛禅総本山少林寺 職員募集のお知らせ

職場という日常生活の中で自己確立、自他共楽を実施しながら、人間力を高めませんか？

【仕事内容】 各種行事の運営、事務全般

【公募内容】

職 種	事務職
人 数	1 名
年 齢	20歳～25歳(位) まで
学 歴	高校卒業以上
武 階	少林寺拳法初段以上
特 記	パソコンがある程度できる方

【採用審査】

公募締切日：随時受け付け

選考方法：第一次審査…書類審査

第二次審査…面接、技術、筆記試験

試 験 日：追って連絡します。

提出書類：履歴書、卒業または見込み証明書(コピー可)、成績証明書、応募の動機と決意(400字詰原稿用紙3枚)

連絡先：総務部総務課 中山享世 Tel.0877-33-1010(内線171) ※詳しくは担当までお問い合わせください。

訃報

よしだ ひでき
吉田 秀樹 八尾東道院道院長
397期生、大導師准範士六段
2014年10月17日逝去、満51歳

おおさわ りょういち
大澤 良一 埼玉上福岡道院道院長
321期生、大導師准範士七段
2014年11月07日逝去、満57歳

こじま たかゆき
古嶋 賢幸 野田川問道院道院長
243期生、大導師准範士七段
2014年11月12日逝去、満65歳

編集後記▶謹賀新年「一より習い 十を知り 十よりかへる もとのその一」。何事も一から始まり、二、三とステップアップして十にたどり着くように、十にたどり着いてそこで満足する人はそれまでで、また一に戻り、繰り返していくことが大切である。再び一に戻るときに初心のころの一でなく、十を経験した人なりの一でなければいけないという意味がある。▶教法と技法を繰り返し学ぶ中で深化してゆこう。さあ、今年も一つ一つを積み重ねて、大きな十を得る年にしたい。社会貢献、復興支援も理想境建設も「自己確立」から始まる。 (お)

表紙▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん vol. 38
金剛禅総本山少林寺広報誌 2015 睦月・如月

2015年1月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 浦田武尚

発行所: 金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 大澤 隆

企画・編集: 金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本: (株)ブル・ドック

広報誌『あ・うん』追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき、門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail: fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

広島五日市道院 元山 剛

可能性の開花を実践

本山で行われた道院幹部講習会に参加しました。この講習会は今までとはかなり違っていました。

6人が一つの班となり講習期間はいつも一緒に行動するのです。そのためまずはリーダーを決めることになりました。私の班は、73歳五段の心臓に障害を持つ年長者、49歳六段の道院長、53歳四段、35歳四段、43歳六段の私、そして紅一点の25歳三段の女性。すごいことにこの女性が自ら立候補してリーダーに！今回の講習会テーマ「可能性を引き出す」を早くも実践されました。

講習会は技術の講習は少なく、ほとんどは班単位での団体演武の練習でした。最終日に自分たちの班のテーマに則った団体演武を発表

するためです。私たちの班のテーマ

は「地位や肩書、年齢性別を超えて、みんなで一緒に創り上げる演武」。まずは全員横一列に並び手を繋いで入場しました。構成の中に、73歳の方を中心にした柔法衆敵闘法、女性リーダーの剛法衆敵闘法を入れ、最後は、講習会の講義でさまざまな講師の先生方や宗道臣先生も言われた「行」を具現化するため、73歳、53歳、女性リーダーを、私を含む残りの拳士がおんぶして退場しました。皆様から大きな拍手を頂き、終わった後に全員でハイタッチしました。

講習会修了後、班員同士で連絡先を交換し、今でもその交流は続いています。小さな理想境が建設された瞬間でした。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Goka Ken, Kannuki katate nage



宗門の行としての少林寺拳法

かんぬきかた て なげ 門 片手投

相手の片手斜め上方に向けた^{かんぬきどり}門捕にて十分に崩し、爪先立ちにさせる。すかさず相手の腕をかいくぐるように^{さんそくぜんてんかん}三足全転換し、ハンマー投げのように投げる。十分に門を効かせて、相手の腕を我の目線より高く掲げておくと、自分の体勢を崩さずにくぐることができる。くぐる際に門を緩めないようにすること。また、踵^{きびす}を返すようにしながらすばやく腰を切ってくぐるとよい。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：永安正樹 准範士六段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法